

平成30年度 第3回京都市上下水道事業経営審議委員会議事録

日 時 平成30年12月10日(月) 午後3時～午後5時

場 所 京都市上下水道局本庁舎 大会議室

出席者(五十音順,敬称略)

1 委員

神子 直之 立命館大学教授(理工学部)

川西 照代 市民公募委員

西村 文武 京都大学准教授(大学院工学研究科)

水谷 文俊 神戸大学教授(大学院経営学研究科)

村上 祐子 株式会社京都放送常勤監査役

山田 陽子 公認会計士・税理士

金井委員, 児島委員及び白井委員については, 都合により欠席

2 京都市

京都市公営企業管理者上下水道局長, 次長, 技術長,
総務部長, 総務部資産・拠点整備担当部長, 総務部お客さまサービス推進室長,
経営戦略室長, 技術監理室長, 水道部長, 下水道部長
事務局(経営戦略室)

次 第

1 開 会

(1) 出席者確認

(2) 進行の確認, 会議の公開について

2 議 題

2018(平成30)年度計画(上下水道局運営方針)上半期進捗状況等について

3 報 告

(1) 水に関する意識調査の実施について

(2) 上下水道局南部拠点整備事業について

(3) 平成30年台風第21号による上下水道事業への影響等について

(4) 平成30年9月市会について

(5) 平成31年度当初予算編成の公開について

(6) 「水道事業・公共下水道事業 環境報告書 2018」の発行について

4 今後の予定

5 閉 会

内 容

1 開会

(1) 出席者確認

事 務 局： 委員長が遅れて参加するため、委員長が到着するまでの議事進行は、副委員長が行う。

(2) 進行の確認，会議の公開について

事 務 局： 議事及び資料の確認

神子副委員長： 本日の会議は公開とし、議事録については、後日公表することとする。
議事録は2名の委員の署名が必要ということなので、名簿順で、村上委員と川西委員にお願いしたい。

2 議 題

2018（平成30）年度計画（上下水道局運営方針）上半期進捗状況等について

事 務 局： 資料の説明（資料4 - 1及び4 - 2）

川 西 委 員： 経営評価については、内容も専門的で、市民に手に取ってもらうことがまず難しいと思う。上下水道局では、市民講座を実施予定とのことなので、そういった機会を活用して、楽しみながら、水道・下水道について興味を持ってもらう必要があると思う。環境のボランティアしており、イベントなどでブースを出したりしているが、いきなり環境の難しい話をしても興味を持ってもらうことは難しく、楽しんでもらいながら、理解を深めてもらうよう工夫をしている。水道は、ちょうど今、水道法の改正でマスコミ報道も多く、注目されているタイミングだと思うので、この機を上手く活用して、何か発信できないかと考える。

京 都 市： 来年度、琵琶湖疏水記念館のリニューアルを予定している。市民講座については、リニューアルの後の記念館において、疏水の歴史などを中心に行っていく予定である。まずはそういった興味を引く話を中心に、その上で、経営の話なども、何らかの形で入れられないか検討したい。なお、経営情報については、各区のふれあいまつりや、検針時に配布するリーフレットなどで、情報発信を始めており、引き続き、あらゆる媒体を使って情報を発信していく。

川 西 委 員： 安全・安心な水が飲めるということは、当たり前ではないということを、この機会に改めて、市民に向けてアピールしていく必要があるのではないかと考えている。

京 都 市： 広報活動については、どの層に、どのような手法で、何をPRしていくかを意識しつつ、市民から頂いた料金でどのような事業運営をしているかを発信することに主眼を置いている。経営という観点での広報活動は少しハードルが高いか面があるが、事業内容を入り口にして、経営情報についても、発信していければと考えている。

川 西 委 員： 今までは、利き水などの方法でPRしてきたと思うが、現在、メディアでも、管路や施設の老朽化などが取り上げられることも多いので、例えば、老朽化した管路を見せるなどの広報の仕方もあるのではないかと。

村 上 委 員： 進捗が計画よりも遅れている、資料4 - 1（上半期進捗状況）p 2の赤囲みの部分について、事業の年度は変わらないという認識でよいのか。

京 都 市： 事業完了年度は計画どおり2021年度を予定しており、計画期間内で、進捗管理を徹底して進めていく。

村 上 委 員： 現在は、水道法の改正で注目されているが、市民からの問い合わせなどはないのか。

京 都 市： 数件ではあるが、水道法改正に係る問い合わせを、市民から頂いている。

村 上 委 員： 各報道機関が、水道事業について報道しているこのタイミングで、京都市の場合はどうなのかということを発信していけば、市民の理解を得られるのではないかと感じる。

西 村 委 員： 地下鉄の車内に、下水道の広告などを掲載していると思うが、経営情報についても、掲載していくのもありではないか。広報活動などは、評価の観点から見ると、定量化が難しいとは思いますが、定量化は難しくても、効果があることもあると思うので、いいと思うことは進めていってほしい。

京 都 市： 水道法改正については、マスコミからの取材も来ている。関心が高い今の時期を捉えて情報発信をしてはどうかとの御意見を踏まえて、広報活動を進めていければと考えている。京都市全体としても、CMも積極的に活用し、情報発信に力を入れている。水需要の喚起の観点から、入浴促進のPRなどにも力を入れている。他の事業体との連携も含め、積極的に進めていきたい。

水谷委員長： 経営評価について、以下の3点について、考えてもらえればと思う。まず、一つ目に、PDCAをただ回すというだけではなく、実質的な効果を考えて進めていく必要があるということ。大学でも事業の評価をするにあたっては、どういう効果があるのか考えていく必要があると言われている。二つ目に、評価

を行うときは、各部署の横の連携を取る必要があるということ。そして三つ目に、広報してはいるが市民に伝わっていない、という状況に気を付けること。

京 都 市： 一つ目について、市民にとってどのような効果があるのかを考えていくことは、非常に重要と認識している。事業の特性上、アウトカム指標を目標として設定することが難しく、これまではアウトプット指標中心の目標設定であったが、新たなビジョン・プランにおいては、水に関する意識調査の結果を活用し、アウトカム指標を、目標に設定している。二つ目については、部門を越えての連携については、今回の上半期進捗状況についても局内で議論した上で評価しており、引き続き連携を図っていく。三つ目についても、あらゆるターゲットに対して、分かりやすい情報発信を心がけていく。

神子副委員長： 経営評価は何のためにやっているのか。経営の状態について、市民と情報を共有して、透明性を確保し、さらに自己評価をすることで、説明責任を果たすということだと思うが、この点、現状での認識を確認したい。

京 都 市： 経営評価とりわけ取組項目の評価は、ビジョン・プランにおいて、当局で目標を定め、評価をする目標管理の手法を採っている。経営評価結果の公表にあたっては、概要版などを作成して、市民にとって分かりやすくなるよう取り組んできたつもりである。しかし、手法の面でも、情報発信の面でも、まだ十分ではなく、発展途上と考えており、委員の皆さんから改善に向けた御意見を頂ければと考えている。

神子副委員長： 目標自体の妥当性は誰が、どのように評価しているのか。

京 都 市： 事業の目標については、ビジョン・プランで設定している。ビジョン・プランの作成にあたっては、市民意見や本委員会及び経営ビジョン策定検討部会での御意見をもとに策定し、京都市会に報告しており、そういった観点から、目標の妥当性に係る検討は十分にしていると考えている。

神子副委員長： 事業の目標は複数の目標が合わさった多層的なもので、ビジョン・プランで切り取るしかないと思う。今回の御意見を踏まえ、ビジョン・プランでも示している、市民と一体となった事業運営という視点について、改めて考えてほしいと思う。

3 報 告

(1) 水に関する意識調査の実施について

事 務 局： 資料の説明（資料5 - 1 , 5 - 2 及び5 - 3）

神子副委員長： 回収率が41.1%（速報値）と、市民の関心も高くてよかったと思う。アンケート調査において、年収などの答えにくい項目は、最後に持っていった方が、回答率が上がると言われている。次年度以降、p2の「ご自身・ご家族について」は、最後に持ってきてはどうか。

京 都 市： 頂いた御意見も踏まえ、来年度以降の調査票の形式については、今後の検討事項としたい。

西 村 委 員： アンケート結果については、今後、分析することになると思うが、こういう結果が出たら、この事業を進めるなど、結果の活用の仕方は決まっているのか。

京 都 市： 調査項目にもよるが、基本的には調査結果は、経年で見えていくので、単年の調査結果を直ちに事業に反映することはあまりない。ただし、広報活動などについては、より認識されている媒体を活用して広報活動をする、逆に浸透していない事業をよりアピールしていくなど、タイムリーに調査結果を活用していくことも必要である。また、ビジョン・プランの目標として、意識調査の結果を設定している項目については、目標の達成度を図ることに活用する。

西 村 委 員： 他都市の情報などは得ているのか。

京 都 市： 本市以外にも、同様のアンケート調査を行っている都市はあり、災害に備えた水の備蓄状況などは、他都市との比較も行っている。

(2) 上下水道局南部拠点整備事業について

事 務 局： 資料の説明（資料6）

神子副委員長： p3の「オ 事業手法」の部分について、分かりにくいので、もう少し詳しく説明してほしい。

京 都 市： ここでは、すべて直営で行う「従来手法」、設計から維持管理までを民間が行う「DBM」、そして資金調達から資産活用まで民間が行う「PFI」の3つの事業手法を比較したところ、「PFI」手法が、最も「VFM」が優位であったということを示している。

水谷委員長： 事業手法が様々あり、公で運営する部分が大きくなると、費用が大きくなり、民間で運営する部分が大きくなると、効率的になるということかと思う。

神子副委員長： p 3の表の「約6.5%」や「約8.5%」といった数値はどう理解すればよいのか。

京都市： 数値が大きくなるほど、費用面で効果が出ているということを示している。

水谷委員長： 収入はどうやって確保するのか。

京都市： 資産活用部分は事業者の収入となるが、すべてのコストを収入で確保することはできないので、足りない部分は、当局が負担することとなる。

(3) 平成30年台風第21号による上下水道事業への影響等について

事務局： 資料の説明(資料7)

西村委員： 災害対応の訓練はしっかり行っており、混乱はなかったという認識でよいのか。

京都市： 台風第21号に伴う被害については、停電が長期間解消されず、その点は特殊な事態ではあった。事故対応については、訓練も重ねており、ノウハウもあるが、停電の期間がここまで長期化するということについては、通常あまり想定できず、今回のような影響が生じた。

西村委員： 災害対応の仕組みについては、どのような形になっているのか。

京都市： 今回の災害は台風であり、来ることは想定できていたため、事前に配水池の水を上限まで溜めておく、また仮設発電機を準備しておくなど、ある程度の対応はできていた。水道事業については、多数の倒木により道路が寸断され、仮設の発電機を現場に搬入することができず、断水に至ったケースがあった。今後同様のケースに対応するためには、優先順位をつけながら、早期に自家発電機を設置することが必要であると考えている。

京都市： 下水道についても同様である。マンホールポンプが停止した山間地域については、発電機とバキューム車を設置して対応した。今後同様のケースでは、市民に迷惑が掛からないよう、早期に対応していきたい。

(4) 平成30年9月市会について

事務局： 資料の説明(資料8)

(意見等なし)

(5) 平成 3 1 年度当初予算編成の公開について

事 務 局： 資料の説明(資料 9)

村 上 委 員： 平成 3 0 年度はどの程度の予算規模であったかなど、今期と来期の比較があると分かりやすいのではないかと。また、資料の裏面に雨水貯留施設や雨水浸透ますの設置助成金についての記載があるが、目標や達成状況などを記載してはどうか。

京 都 市： 今回は予算の編成過程を公表するものであり、前年度との比較等は当初予算の概要として、今後詳細をお示しする。本件は、議会に提案する前段階のものであり、細かい数値等については、改めて報告させて頂ければと考えている。

川 西 委 員： 本資料の内容については、一人でも多くの人に見て頂ければと思う。p 3 だけでも、市民しんぶんや検針時のリーフレットなどを活用して広報してはどうか。

京 都 市： 管路や施設の老朽化は、深刻な課題と捉えている。厳しい状況でも運営していかなければならない事業であり、実情を市民に知って頂くことが重要なので、頂いた御意見も踏まえ、様々な形で示していければと考えている。

神子副委員長： 経営ビジョンとの結びつきは分かりやすいが、予算全体の中でどのくらいか、前年比でどのくらいかということを示さないと分かりにくいと感じる。

京 都 市： 予算の全体像や前年との比較についても、今後、予算概要資料でお示しできればと考えている。

(6) 「水道事業・公共下水道事業 環境報告書 2 0 1 8」の発行について

事 務 局： 資料の説明(資料 1 0)

山 田 委 員： 本報告書については、事業が排出する温室効果ガスを「自家用車が 1 年間に排出する CO 2」に換算(p 1 4) するなど、生活に結びつきやすく、想像しやすい書き方になっていると感じた。ただし、やはり環境の取組は難しく、作成部数も 1 , 5 0 0 部と限られているが、誰をターゲットに本冊子は作成しているのか。

京 都 市： 一般市民の方を対象に、市役所や図書館などに置いてはいるが、広報の仕方については検討していかないといけないと考えている。

山田委員： 環境に関する取組は非常に重要だと思うので、本冊子を活用して、子どもたちにPRをすることなども検討して頂ければと思う。

西村委員： ホームページでは過年度のものも公表しているのか。

京都市： PDF形式で、過年度分も公表している。

4 今後の予定

次回は2月ごろに実施予定であり、後日事務局から連絡することとした。

5 閉会